

下鵜飼地区 地域農業マスタープラン(実質化された人・農地プラン)

注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	作成年月日	直近の更新年月日
滝沢市	平成26年3月	令和6年3月29日
対象地区名(地区内の集落名)		
下鵜飼地区 (集落:鵜飼)		

1 対象地区の現状

① 地区内の耕地面積	96.15 ha
② アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	59.44 ha
③ 地区内における75歳以上の農業者の耕作面積の合計	9.92 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	/
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	3.96 ha
④ 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	5.00 ha
(備考)	
①地区内の耕地面積は令和4年度末の数値。	
②～④は令和3年度のプランの実質化において用いた数値を引き続き使用している。	

注1: ③の「〇歳以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2: ④の面積は、別表「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3: アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4: プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

集団化を図りながら、転作作物のブロックローテーションを行っているものの、地域の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加は避けられない状態である。

注: 「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

平坦な農地が広がっているため、集団で水稻の作付と転作作物のブロックローテーションの構築を図り、品質の向上と収量の増加に取り組みたい。地域の中での組織力を生かし集団化を図るなど結組織や集落営農等を検討していく。

注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実に市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

(1) 農地中間管理機構の活用	経営農地の集約化を目指し、出し手・受け手が農地を機構に貸し付けるよう推進する。受け手が営農困難になった場合も新たな受け手への付け替えを進めることができるよう中心経営体の登録及び貸付けを進める。
(2) 複合化・6次産業化	稲作・野菜の複合化を進める。野菜や花きの拡大のため、各種補助事業・資金等の導入を行う。6次産業化に向けて検討を進める。
(3) 耕作放棄地の解消・再生利用	耕作放棄地及び不耕作地を防止し、再生を図るため多面的機能支払交付金事業を推進していく。耕作放棄地の解消にも努めていく。
(4) 新規就農の促進	新規就農者の掘り起こしを進める。
(5) 集落営農組織等の検討	持続可能な農業の推進のため結組織や集落営農などを検討していく。

5 今後の地域の中心となる経営体の状況

(1) 経営体数

	個人・任意組合	法人
① 認定農業者	13 人	1 法人
② 認定新規就農者	0 人	0 法人
③ 集落営農組織	0 組織	0 法人
④ 他市町村の認定農業者	7 人	0 法人
⑤ 他市町村の認定新規就農者	0 人	0 法人
⑥ 基本構想水準到達者 ^{注)}	5 人	0 法人
⑦ 今後育成すべき農業者	2 人	0 法人

注：基本構想水準到達者とは、①～⑤以外の者で市町村基本構想で定める目標所得を上回っている者。

(2) 農地の集積面積

	集積面積	地域内の耕地面積	集積率
現状	82.20 ha	96.15 ha	85 %
今後	82.20 ha	96.15 ha	85 %

※令和4年度農地中間管理事業実施後の状況